

## 202. 職場で仕事を行うことについて ～在宅勤務で思ったこと～

技術戦略部 技術基準課長 若尾 正光

日本下水道事業団（以下、JS）は、4月7日に発令された政府の緊急事態宣言を受けて在宅勤務を行っています。在宅勤務期間は、今日（5月15日）で1か月以上になります。今回は下水道の話ではなく大変恐縮なのですが、私自身が在宅勤務で思ったことを述べたいと思います。

私が在宅勤務を始めてまず苦労したことは、課の職員とのやり取りをメールで行ったことによるメール数の増加です。自分に文章力がないこともあります。業務の内容を把握して対応を回答するまでに複数回のメールのやり取りを行うことがあったため、職場で仕事を行っている場合と比較して明らかに仕事の効率が低下してしまうことを実感しました。このため、課の職員とのやり取りは、その内容によってメールで回答する、TV会議システムを用いて口頭で回答することを使い分けたことにより仕事の効率が改善されました。

在宅勤務での連絡手段が電話、メールだけであつたら、仕事の効率は大きく低下するとともに精神的にも辛いものだったと思います。打合せ内容を全て文章にしてメールでやり取りすることは大変であり、文章の捉え方で気分を害することもあると思います。電話を用いた打合せは、複数の人と同時に行うことは出来ませんので効率が良くありません。TV会議システムを活用した打合せは、複数の人と顔を見ながら、または同じ資料を見ながら打合せを行うことが出来るためメールと電話の欠点を補うことが可能であると思いました。

しかし、TV会議システムを活用した打合せでは、職場で打合せ以外に交わす会話の重要性について改めて認識させられました。職場の何気ない会話は同僚とコミュニケーションを取るために重要であり、仕事の課題を解決に導く糸口となるヒントがあることも少なくありません。職場で何気なく交わされる会話が、お互いに相手を理解することになり仕事を円滑に進める潤滑油になっていることを再認識しながら自宅での原稿を書いています。